



# 世論を無視 五輪を強行 菅政権

## コロナ対策こそ最優先にするべきです

### 五輪も学校の観戦も「中止を」と申し入れ 日本共産党 青梅市議団

青梅市では、小中学生7000人が、国立競技場などでオリンピック・パラリンピック大会を観戦する計画(学校連携観戦)でしたが、この計画は「中止」とすることが、7月5日、青梅市教育委員会から発表されました。

この行事は、新型コロナ感染を心配する保護者のほか、多くの子どもたちを先生が引率し、電車で現地に向かう計画であることなどから、「熱中症の心配が強く、安全に責任が持てない」と、先生たちからも不安の声が上がっていました。

日本共産党市議団は、安全面を優先し、多くの保護者の合意を得るためにも、市教育委員会として「中止」の判断をすること、あわせて**五輪そのものも中止を求めるように、市に申し入れを行いました。**

中止が決定し、学校の説明を聞いた保護者からは、

「まわりにいる人たちもホッとした様子でした」と安堵の声が聞かれました。

しかし、菅政権・東京都は、五輪競技大会については、4度目の緊急事態宣言下でも開催を強行し、感染者はオリンピック期間中に爆発的に上昇しました。ワクチン接種だけに頼るのではなく、医療・検査体制の強化や営業・くらしの補償など、日本では特に弱いとされてきたコロナ対策の強化が必要であることは明白です。

特に、宣言下でのオリンピック開催は、国民に対する矛盾したメッセージとしか言いようがありません。現実を見ない政府の姿勢を転換することが必要です。



### ワクチンの予約やお困りのことはお気軽にご連絡ください

## 沢井市民センター体育館など 公共施設のバリアフリー化促進を

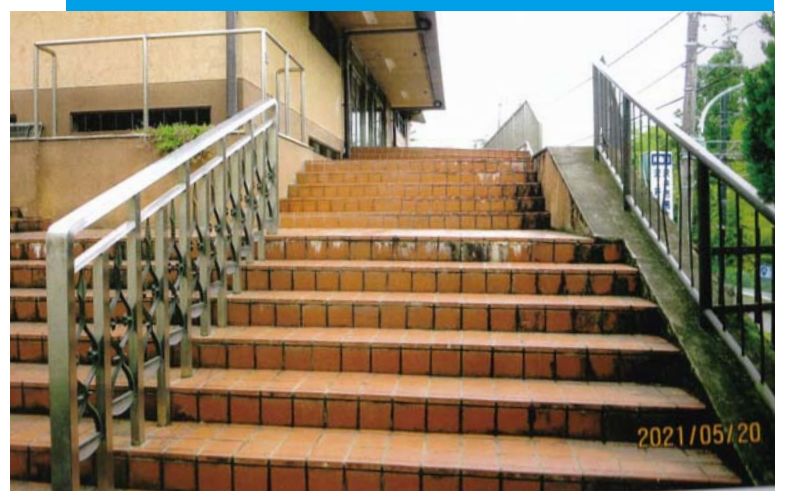
6月議会一般質問

新型コロナのワクチン接種会場となった沢井市民センター体育館は、階段が多く手すりも不十分で、スロープもありません。利用された市民から改善を求める声が寄せられました。私は11ヶ所の市民センター・体育館をすべて視察し、現状について市の見解をたずね、改善を求めました。

6月議会で小曾木市民センターのスロープ整備については、補正予算が組まれており、沢井市民センターのみバリアフリーの計画がないことがわかりました。国や都などの補助金も活用し、まずは手すりを早期に設置するよう求めました。

また市では市民センターの統合・削減の計画がありますが、避難所にもなる身近な公共施設を残すよう計画の見直しを求めました。

市内の市民センターでスロープがないのは沢井のみで、階段の手すりも途中までしかありません



2021/05/20